平成27年(2015)
阿づまの光
11月号・Novembro

題字出口直日
通巻第560号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端2-1-44
TEL 03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
振替 00160-5-72625
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

五代教主作 灰釉茶盌 銘「岡の上のぶどう園」
【金龍海土＋明日香ぶどう釉】

天地和合

総務管理課長 藤本 光

平成2年9月23日、三代教主さまのご昇天の報を、私はこの東京本部で知らされました。当時、東京本部の奉仕者全員、深い悲しみと混乱の中、聖地へすぐに駆けつけることができない信徒の皆さまに、まずこの東京本部でも三代さまへ弔慰のお参りをしていただけるよう、体制を整えることから始めました。能舞台に八足台をしつらえ、三代さまのお写真を置かせていただき、お供え物やお花を飾りました。数多くの問い合わせの電話もあり、誰もが気持ちの整理がつかない状況で対応させていただいたことを思い起こします。

それから早くも25年が経過しました。三代さまは、私の年代では生まれた時から青年期にかけての時代が、まさに教主さまの時代です。子どもの頃から両親やまわりの信徒の方々から、三代さまからのおかげ話等をよく耳にしました。特に父親の体験談で、竹田時代に三代さまと農作業を共にし、お茶を教えていただいたこと、昭和38年の夏、私が3歳の時、和歌山の田舎に、三代さまと当時の聖子さま（四代さま）をお迎えし捕鯨船にお乗りいただいたこと、またその後、父が三代さまから直接お送りいただいた何通かのお手紙を、満面の笑みで私たち子どもに読み聞かせてくれたこと等、懐かしい思い出です。

こうして、繰り返し三代さまのお話を聞くうちに、子どもながらも大本の神さま、歴代教主さまの偉大さが、理屈を超えて感じるようになり今日に至りました。私より多くの先輩信徒の方々も、言い尽くせないほどの三代さまの思い出がたくさんおありのことと存じます。

ご案内の通りこの11月1日、三代教主さまのご生涯が綴られた『天地和合』が刊行されました。みろくの世の姿を身をもって実現する、三代教主さまの時代からこれからも続く「報身みろくの神業時代」。五代教主さまの今日、ほんのわずかでも教主さまの御心に近づけるよう、自身の信仰生活のあり方をしっかりと省みなければならないと思うこのごろです。

今月の聖言

己（おの）が身をかへりみずして世のために
尽くす人こそ国の美宝（みたから）

出口王仁三郎聖師

大本公開講座

芸術は宗教の母

～大本の芸術文化活動～

大道場講師
尾﨑泰良（おざきやすなが）

「宗教は芸術の母」といわれるように、宗教は絵画、建築、音楽など多くの芸術作品を生み、文化の興隆に大きな影響を及ぼしました。しかし、王仁三郎聖師の芸術観はさらに大きく、「芸術は宗教の母」として、芸術こそが宗教を生んだのだと示しました。

人がつくりだした作品のみを指して芸術と呼ぶのではなく、天地間の森羅万象そのものが、神の芸術的産物であると説いたのです。人智の及ばない自然の発する美しさに感応する心が慈愛を育み、それが宗教の根幹をなす情動となったということです。

芸術と宗教は人生の響導者※（きょうどうしゃ）

要するに宗教と芸術のどちらも、神の存在を抜きにしては語れません。宗教は〝祈り〟、芸術は〝美〟によって、神の実在を感じることができます。大本の特徴は、芸術活動や稽古事を奨励して芸術を信仰生活のなかに取り入れていることです。「信仰即芸術即生活」が大本の教風といわれる由縁はそこにあります。

大本には、「人は神の子、神の宮」という教えがあり、人は生まれながら〝神性〟をいただいていると示されています。この〝神性〟を開発することで、心が豊かになり、充実した人生を歩むことができるのです。

美しいものを〝美しい〟と感じる心は、性別や年齢などに関係なく、万人に共通して与えられた感性です。この感性は神性でもあるわけで、美意識が高まれば、その人は神心に近づくともいわれています。

美の感性は理性や理屈で培われるものではありません。実際に自然や芸術作品に数多く触れることで、その深奥にある本質を見出すことができ、次第に心が高尚になっていきます。

祈るだけが、神に通じる道ではありません。なにか真に美しいものに触れるだけでも、神へと通じていくのです。

美に対する相応の理

きれいな花を見たり、美しい自然に囲まれたりすると、心が安らぎ清らかな感情になります。それは、神からいただいた感性がはたらき、美しさが心に反映するからです。

その反対に、常日頃から醜悪なものを見たり、悪い想念を持ちながら生活していると、それに属した心の状態になり、言葉遣いや態度なども、それ相応になってしまうのです。

※響導者＝先に立って案内する者。道中師

芸術家としての王仁三郎

大本には出口王仁三郎聖師の耀盌や、出口すみ子二代教主の書をはじめ、数多くの作品が残されています。

一般的に芸術作品というと、どこか枠にはまった印象がありますが、例えば、王仁三郎聖師の耀盌は楽焼でありながら、多彩な色をふんだんに使っているように、固定の概念にとらわれない作品と言えます。王仁三郎聖師は心から楽しんで耀盌を生んだといわれていますから、多くの人に心から楽しんで観ていただきたいと思います。

王仁三郎聖師は宗教家の他に芸術家、哲学者といった顔をもっています。多くの預言や、霊能力が高かったことから、社会的には宗教家として名が通っています。そのため王仁三郎聖師の芸術作品は、一般の芸術家と列を並べて評価されていないように思います。社会的に宗教という縛りがなければ芸術家として、その道で一流と称されたに違いありません。

芸術は宗教の母

普段から美しいものに触れることは、善意に満ちた生活を送る上でとても大切なのです。宗教も芸術も、その根底にあるものに触れることで、心から〝愛〟をもって人と接することができるようになると思います。

一歩、踏み出して

「あまり鑑賞したことがないので、芸術的な価値観がわかりません」という方がいますが、何事も興味を持とうとする心がけが大事だと思います。

例えば、草花に興味のない人でも、一つ花の名前を覚えれば、そこから関心が広がっていきます。その花を公園や道端で見かけると愛着が湧いて、次第に他の花のことも調べてみようと興味が広がるかもしれません。そうすることで、自然の果てしない世界を知り、物事に対して謙虚な姿勢が生まれます。

芸術は決して高尚な世界ではなく、関心や興味から入っていくことができます。自然や芸術に触れて、素直に「美しいな」と感じる心は神性なのですから、決して特別な世界ではないのです。

美からの門戸

出口日出麿尊師は、「神に通じる門戸」として三つを示しています。神に通じるとは「神の実在を覚る（さとる）」と表現してもよいと思います。

一つ目は、真理によって神に通じる道で、学問がこれにあたります。規則正しい天体の運行や、遺伝子の発見など、人類は自然科学の分野で様々なことを立証しましたが、究明してくと深奥に何か偉大な力を感じざるを得ないということです。

二つ目は、善や愛から神を感じる道です。これは宗教や道徳にあたります。

しかし、この二つは、よほど卓越した科学者、哲学者や、祈りに徹した宗教家でないと、なかなか到達できない境域です。

そこで三つ目を神さまは準備されました。それが〝美〟によって通じる道です。大本では神に通じるには「美からの門戸」が最も容易だと示されています。美を感じることは、本来は誰もが持っていて、神のみ心に到達するものであると説かれています。美しいものに対して「あぁ美しいな」「心が和むな」と思ったときに、神を感じることができるといわれています。また、この感性を発揮することこそが、「美からの門戸」の神髄とも教えられています。

人生を歩む上で大切な力

「芸術は宗教の母」「芸術と宗教は人生の響導者」「美からの門戸」、この三つのキーワードが、大本の芸術観を表現したものと言えますが、あと一つ大切なことがあります。それは物事を観察することによって、その本質を見抜く力、洞察力を磨くことです。

過去に出口直日三代教主から、「物事をじっと観察できる人は魂が鎮まっています」と教えていただいたことがあります。芸術に精通しているとか、造詣が深いとかに関係なく、心を鎮め、作品を観る。自分の好みかどうかから始まり、他の作品との違いを比べ、その作品に隠された力や、霊性を感じとることによって、本質というものが次第にみえてきます。これは芸術作品に限りません。あらゆる事物に対して〝本質を見抜く力〟をつけることです。このことは人生を送る上で、とても大切だと思います。良いもの、本物は何かということに対し、目利きできれば、本当の意味で充実した人生を送ることができるでしょう。

大本の歴代教主・教主補が作品を数多く残されたのは、本質を見極める目を養うためとも言えるかもしれません。

掲載文は、平成27年7月15日に航空会館（港区新橋）で開催した「大本公開講座」講演録の要旨です。

一般には、宗教から多くの芸術が生まれたと言われ、
大本では、芸術は宗教の母と教えています。
「芸術」と「宗教」は密接な関係にあります。
その共通点は？その理由は？

東光苑秋季祭式講習会

東光苑秋季祭式講習会は、9月26・27の両日に開催され、延べ29人が参加した。

受講者は、初級クラスが基本動作から正中動作・後取動作・祝詞展巻奏上・祓式行事・献饌・月次祭まで、中級クラスがそれに加え、大神鎮座祭・祖霊鎮祭までを実習した。

なお、初級と中級クラスの内、12人が大本祭式認定試験に臨み、2日間の実習の成果を試した。

基礎を重点的に学び、祭式の修得に励んだ

秋をめでる夕べ

東光苑秋をめでる夕べは、9月27日（旧暦8月15日）午後6時から8時まで催され、一般を含む49人が参観した。

能楽の調べが流れる中、行燈の灯りがゆれる苑内では、薄茶と御神酒の接待が行われたほか、応接室では歴代教主・教主補さまのお作品展示が行われた。

薄あかりの中で一服の薄茶を堪能した

東光苑月次祭

東光苑月次祭・市杵島姫命例祭は、10月11日、午前10時30分から、斎主・髙野春樹祭務課長のもと執行され、328人が参拝した。

祭員は関東教区直心会員、少年祭員は東京主会の石川可純さん、伶人は宮咩会関東支部、大本神論拝読は渡辺弘子直心会茨城連合会長、添釜は髙野社中がそれぞれ担当した。

祭典後、東京本部を代表して猪子恒東京宣教センター次長が挨拶に立ち、教主さまのご動静として、ベトナム、イタリアご訪問にふれ、大本の宗教交流などについて紹介した。

次いで、奉納行事が行われ、栃木主会の皆さんが、愛善歌『黄金』を奉納した。

また、直会後には、関東教区の直心会連合会バザーが1階ロビーで、関東教区青松会主催「元気が出る研修会」が講座室で、それぞれ開催され研修会では猪子次長が、「活力あふれる未来へ」と題し講演した。

栃木主会のみなさん

研修会には大勢の参加者が集まった

家庭平安祈願祭

家庭平安祈願祭（24回）は、10月17日午前10時30分から、斎主・髙野春樹祭務課長のもと執行され、51人が参拝した。

祭典では、斎主と祭員が全国から申し込まれた509の世帯主名を全て読みあげ、家庭の平安と繁栄を祈念した。

祭典後、東京本部を代表して、猪子恒東京宣教センター次長が挨拶に立ち、「互いの存在をありがたいと思うことで、円満な家庭に近づく」と夫婦や親子の関係について述べた。なお、ご祈願は、10月24日までの一週間続けられた。

大本公開講座

第152回大本公開講座は、10月21日午後7時から港区新橋の航空会館で開催され、猪子恒東京宣教センター次長が「一つの世界を目指して～大本と世界連邦運動～」と題して講演した。参加者は26人（内、一般6人）。

講座では、世界各国をはじめ、日本の国政や戦争などの歴史と、大本の歴史を照らし合わせながら、世界連邦の意義を説いた。

そして、現在の大本が関わる綾部市の中東和平プロジェクトを紹介し、「大本は、必ず世界が一つになると確信しながら、進ませていただいている」と結んだ。

参加者からは、「夢のある未来を感じ、心地良い世界をイメージすることができました（男性・一般）」等の声が寄せられた。

東光苑祭典・行事予定

11月

1日（日）午前10時30分執行
開教123年 大本開祖大祭遥拝祭

8日（日）午前10時30分執行
東光苑秋季大祭
新穀感謝祭・七五三詣り

14日（土）午前10時30分執行
東光苑葬祭研修会

18日（水）午後7時～8時30分
大本公開講座（航空会館・港区新橋）
講題 明るく素直に前向きに①
～大本四大綱領～
講師 鈴木林太郎（愛善宣教課主事）

23日（月・祝）
全国人型おすすめ活動日

12月

13日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭
全国人型おすすめ活動の日

16日（水）午前10時30分執行
開祖聖誕祭（179年）

16日（水）午後7時～8時30分
講題 明るく素直に前向きに②
～大本四大主義～
講師 小藪資史（特派宣伝使）

20日（日）
全国人型おすすめ活動日

25日（金）午前10時30分執行
出口日出麿尊師毎年祭（24年）

大本東京本部ホームページ
URL http://oomoto-tokyo.com